

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	文化財課	主管課長名	蟹 雅一
2-5	施策名	文化財の保存活用	関係課	商工観光課、学校教育課、都市整備課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度			
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている。	・市民 ・桜川市内に存在する文化財	①桜川市人口	人		見込値	41278	41008	40738	40467	40197		
					実績値	41278	40483	39692	39571	38957		
		②指定文化財数	件		見込値	126	126	126	126	126		
					実績値	126	126	127				
		③登録文化財数	件		見込値	99	99	102	102	102		
					実績値	99	102	102				
	施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度			
					①文化財などを大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合	%	目標値	84.7	86.7	87.7	88.7	90.7
					実績値	83.2	81.6	82.3				
					②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合	%	目標値	54.2	55.2	56.2	57.2	60.2
					実績値	50.1	48.0	54.8				
					③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数	人	目標値	1525	1625	1725	1825	1925
実績値	1831	1401	877									
成果指標設定の考え方	「文化財を保存・活用して継承し、地域に愛着や誇りを持っている」は、①文化財などを大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合を、実績値を80%に維持することにより継承出来ると判断した。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合を実測値50%に維持することにより維持出来ると判断した。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数を増加させることにより、施策の意図が醸成されると判断した。											
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①文化財などを大切に、後世に伝承していくべきと思う市民の割合、②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は、市民アンケートより求める。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、真壁街並み案内ボランティア受付簿より求める。											

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない（横ばい状態）
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	市内の仏像が報道で大きく取り上げられたことや、文化財の新規指定を行ったこと、また、パリのノートルダム寺院大聖堂での火災、沖縄の首里城の火災により文化財への関心が高まったことを反映してか、昨年度に比べてアンケート成果の改善が見られた。しかし、標本母集団の年齢層が昨年度より上昇しており、そのことがアンケート結果に影響している可能性もあり、施策の成果としての改善とまでは評価できない。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①文化財などを大切に、後世に継承していくべきと思う市民の割合は、87.7%に対し、82.3%と5.4%下回った。②郷土の伝統行事や文化財に愛着心や誇りを感じている市民の割合は令和元年度目標値56.2%に対し、54.8%と1.4%下回った。いずれも全体の下落傾向に対して目標値の適正な修正が出来ていないことが乖離を大きくしているが、数値は若干の上昇がみられた。令和元年度は雨引山薬師寺と椎尾山薬師院でそれぞれ金剛力士立像の修理が行われ、大きく報道もされて文化財への関心が高まった。また、元岩瀬地区の今宮神社本殿が市指定文化財となった。防災面では富谷山小山寺と上谷貝鹿島神社の自動火災報知設備の修理補助を行った。アンケート結果を地区別にみると、指標①では岩瀬地区84.5%、真壁地区80.5%、大和地区80.6%、指標②では岩瀬地区51.4%、真壁地区61.8%、大和地区49.4%となっており、地区による差が大きい。指標①は岩瀬地区が3.7ポイント上昇し市内トップとなった。指標②は真壁地区が他地区を10ポイント以上上回り、数値も大きく上昇したが、明確な要因は判断しがたい。③真壁街並み案内ボランティアを利用した人数は、ひなまつりへの来客数が新型コロナウイルス流行の影響で大きく減少したことから、大幅な減少となった。		

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
令和元年度に貢献度が高かった事業は、「旧高久家住宅の管理運営事業」、「出土遺物保存処理委託事業」、「国指定史跡真壁城跡保存整備事業」、「文化財防火デ－訓練事業」、「指定文化財等維持管理・調査事業」、「歴史資料館運営・教育普及事業」であった。旧高久家住宅は地域おこし協力隊と連携した活用を開始し、開放日数が増加した。また、自動火災報知設備の経年劣化や落雷に対応した修理事業を実施した。	国指定史跡真壁城跡については、情報発信や教育普及の取り組みが少ない現状にあるため、ホームページやSNSをはじめとする多様な媒体を活用するとともに、歴史講座などの公開イベントを継続的に実施するなど、積極的な周知広報活動を行う必要がある。また、市内で文化財等の歴史的資産に関する把握状況に地域差があるため、基礎的な調査の拡充を図る必要がある。